

平成21年度事業報告について

平成22年5月7日

平成21年度の我が国経済は引き続き厳しい状況で推移した。この経済社会情勢を反映して、就職・進学等進路を巡る環境は大きく変化しており、フリーターやニートの問題は更に深刻になっている。この様な社会情勢の変化に対応していくためには、主体的に自己の進路を選択し、決定できる能力を持つことが重要である。

従って、若者に対し早い時期に「気づき」の機会を与え、しっかりとした人生観、職業観と社会人基礎力を身につけさせ、様々な課題に柔軟、且つ的確に対応し、社会人・職業人として自立していくための教育と指導の推進が求められている。

こうした状況下、本財団は学生・生徒の選職能力の充実を図るための職業指導学の研究を推進するなど、以下の各種事業を実施した。

1. 普及啓発事業の実施

学生・生徒の選職能力の充実を図るための職業指導学の普及啓発のため、以下の事業を実施した。

(1) ホームページ等による広報活動の実施

理事長ブログなどの内容を加え財団ホームページを刷新し、職業指導学の普及と啓発に努めた。

(2) 平成21年度 高校生論文コンクールの実施

本財団主催、大阪府教育委員会並びに大阪日日新聞後援による、「私の夢と職業選択」をテーマとした「平成21年度 高校生論文コンクール」を継続実施した。

今年度の応募総数380点から36点（最優秀賞1点、優秀賞5点、特別賞7点、佳作11点、奨励賞12点）の入選作品が選ばれ、11月27日大阪市北区の「ラマダホテル大阪(桜の間)」にて関係者多数の出席のもと表彰式を開催した。表彰式では早坂本財団理事長より、論文の講評と入賞者に賞状と記念品及び副賞が授与された。

2. インターンシップ事業の実施

(1) 夏季インターンシップの概要

夏季インターンシップを平成21年8月17日から29日の間、本財団後援のもと実施した。「女子大生に勇気と希望を」をテーマに、関西の31大学47名の学生が参加した。

(2) 春季インターンシップの実施

春季インターンシップを平成22年3月1日から2週間、「ささやかな経験」をテーマに、本財団後援のもと実施した。参加は、関西の14大学23名であった。

3. 調査研究事業

(1) 若者の自立・挑戦のための調査研究事業

我が国経済社会を取り巻く環境の変化を踏まえ、「若者の労働需要の変化の背景」、「若年失業無業者に対するキャリア教育と就業支援」、「学校におけるキャリア教育と就業支援」、「中等教育におけるキャリア教育」、「近年の職業教育訓練政策と失業対策」、「若年者就業支援」、「就職者支援制度」、「中小企業における社員の育成と研修」等について研究してきた。

(2) フリーター、ニート対策研究事業

フリーターやニートなどの社会問題について研究し、若年層の「自分探し」などの調査を継続した。

(3) 日本版デュアルシステムの導入調査研究事業

若者の実務経験不足という問題に対応するため、座学と企業での実習を組み合わせる「日本版デュアルシステム」についての研究を継続した。

(4) 職業訓練事業の検討

「緊急人材育成支援事業」及び「委託職業訓練事業」等について実情を調査し、計画について検討した。

4. 労務パートナーズ事業の実施

(1) 労務パートナーズ事業WG

企業内社員の生産性向上のため社会保険労務士などの専門家を組織して、社員教育を実施し、能力及びスキルの向上に貢献するため「労務パートナーズ設立」に向けて具体的検討を行った。

(2) 労務パートナーズ説明会

平成22年2月20日10名の参加者に対し、第1回説明会を実施した。

5. 財団あり方WGの検討実施

公益法人改革等本財団を取り巻く環境変化を踏まえて、今後の財団のあり方や新たに取組む事業について、関係者で組織する検討会で討議を継続した。

(1) 検討内容

- ①公益財団法人への移行の検討
- ②社会貢献できる新規事業の企画
- ③既存事業の充実を図るための検討

(2) 開催回数

検討会：3回（平成21年11月11日(水)、平成22年1月25日(月)、平成22年3月17日(水)) 実施。

6. F式選職能力テスト推進WGの実施

財団の使命の一つである職業指導学振興のための具体的手段である「F式選職能力テスト」は、芦屋大学の創立者である福山重一博士が昭和24年に「職業指導学」の研究により開発したテストである。中学校用、高等学校用、一般用の3種類があり、職業を自ら選択しうる職業選択能力を評価するもので、自己分析力、職業分析力、職業試行（経験）力の3要素からなる。

現今において、生徒・学生などの多くの若者は自らの将来について、また希望する職業に就くために、どのような能力やスキルを身につければよいか明確に理解する機会を持っていない。そこでこのテストは、初期の段階において若者に「気づき」の機会を与える具体的手段として有効な方法と考えられ、現代版の作成が必要であることから、検討を継続した。

産業・経済構造は変化し、消えた職業もあれば、新しい職業も増えていることから、専門家や有識者の参加を求め、現代社会に対応する内容に全面改訂するための研究により、新版「F式選職能力テスト」の開発に取り組むこととした。